

NO. 631
発行
08・3月30日
国鉄労働組合
新潟地方本部
発行責任者
守橋久仁雄
編集責任者
教宣部

政治で解決させる

三月十六日(日) 十三時三十分より新潟市『NSG学生総合プラザ』四階で『1・23全動労判決 3・13国労判決報告集会』が開催され八〇名が結集しました。

集会では、国労新潟地本家族会の渡部さんが司会を担当され、『家族会も最後まで共に闘っていく』と力強いあいさつがありました。主催者を代表して、建交労の杉崎



委員長のあいさつ、報告と提起として、建交労全国鉄道本部国鉄闘争推進委員会委員長の坂田晋作氏からあ



1・23全動労判決
3・13国労判決
報告集会開く

主催者あいさつ 建交労 杉崎委員長



勝利判決が出ず悔しい思いがある。司法の限界なのか、三権分立ではなかったのか。大きな運動が必要だ、真実はひとつだ。

差別があったことについて許せない。さまざまな事件が日本各地にある。不当解雇がやられている。

国鉄からJRに移行して、①JRは国民の足になっているのか、公共交通として役割を果たしているのか②安全・安定輸送についてどうなっているのか③国民の財産だった国鉄がどうなってきたのか、などの問題がある。学習しながら勝利に向けてがんばっていく決意だ。



り、県労連・山崎議長から集会アピールを提案、全体の拍手で採択されま



した。

そして、国労新潟地本・加藤副委員長の開会あいさつでは『国鉄闘争は二十一年目を向かえる。裁判など大きな山場になっている。3・13は不当判決だった、この流れを断ち切っていく。四者四団体の団結・エネルギーを地方・中央から闘い広めていく。闘争団は高齢になってきている。一日も早い解決をめざす』とあいさつがありました。最後に『団結がんばろう』で集会を終了しました。



ダンフ・トラック パレード 4月20日

今年も行います。多くの組合員の参加をお願いします。詳細は後日連絡します。





「JR採用差別事件解決への道」

坂田晋作氏

建交労全国鉄道本部
国鉄闘争推進委員会委員長

国鉄からJRへ民営化し多くの労働者を解雇した。JR移行時に法律をつくった。国労・建交労は分割・民営化に従わなかった、法に違反するから採用しなかった。

『じん肺』については不作行為があった。ゼネコンは国の安全基準を守っていなかった。現場では厳しい労働条件・環境だった。ゼネコンは違反していることを認めた。そして、その工事の発注者が国だから国の責任を追究した。現場の実態を調査しその結果を追究した。



国鉄の不法行為があった。国労・全動労への脱退強要について国の責任を追究している。相手の違反を認めさせるのは困難だ。採用は法律に基づいての基準だった。

当事者く四者四団体がひとつにまとまる方向へ、やつと昨年、三月十六日以降にまとまり解決の道筋ができた。裁判は二勝一敗、政治的解決へ。ひとつ負けることよって政府が少し楽になるのでは、そういう楽観的な見方をしていく。

政府はどういうかまえをしているのか

①当事者がバラバラでは対応しないと言っていた。↓その後まとまった。

②要求は具体的に何か、明確に。それに対し↓要求は明確にしてきた。

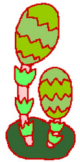
③裁判中は解決できない。それに対し↓裁判でも和解を、同時決着を提案している。

④連合にJR内の二つの労働組合がある、分割・民営化に賛成した。賛成した組合が反対した組合を認めるのか、同意するのか。それに対し↓国は中立を守らなければならぬ。政府を追究した。

解決するまで 出口まで統一して 政府に対応する

三月十六日に四者四団体が調印、解決させるため政府に出した。解決するまで、出口まで統一して政府に対応する。

六月一日にILOへ申し立てる。連名で国労・全動労が書簡を出した。四者四団体が統一して解決していくことを明記し出した。『じん肺』では七割の国会議員の署名を集めた。国鉄闘争も国会議員へ呼びかけ早期解決を訴えていく。



今度は政府が 回答する場面になる

四者四団体の確認事項を政府とILOへ出す。今度は政府が回答を出す場面になる。流れは、政治的判断を出させる状況へとなる。

二〇〇三・十二月の最高裁判決ではJRに法的責任は無いという内容。JRが引きつがなかったのは、借金と一〇四七名の国鉄職員、鉄道運輸機構が責任を負うべきという判決だった。不当労働行為を認定したが改革法から現場復帰は認められない。



3・13の判決は不当だ。政治的解決を。分割・民営化は国策に基づく解雇だから、国の責任・政治で解決させる。勝った、負けたという問題ではなくこれだけ裁判をやっているということ、政府へ訴えていくこと。東京高裁が主戦場だ。国は法律上、根拠のないお金を出さない。司法機関での和解は法的根拠になる。高裁での和解から政府はテーブルにつきやすくなる。

四弁護団が まとまった

四弁護団が、まとまった。以前は困難だった。三つの高裁が軸になる。四者四団体、そして弁護団がまとまった。当事者・弁護団が要求を突きつけていく。三本柱を申し入れる、これに基づいて交渉テーブルをつくる。国鉄闘争は、国への闘いだ。日本労働運動の再生を目指していくため、さまざまな闘いへの影響をあたえていく。

官民一緒に闘う 体制をつくる



葛西(当時職員局長)を証人喚問する。JR採用にあたって差別をおこなった。六月二日、高裁で葛西を追求していく。

規制緩和は事業所緩和だ。労働法制の緩和・社会保障の緩和・医療年金・介護保険など厳しい実態だ。労働者は官民一緒になって闘う体制をつくる。

3・13判決は一〇〇%負けたからかえってすっきりする。勝った負けたの問題ではない。一日も早い解決を。

